



ニホンザル(伊船町)



Vol.5

鈴鹿市のほ乳類

皆さんは、ほ乳類というとどのような動物を連想しますか。ほ乳類とは、サルやシカ、イノシシ、リス、ネズミ、コウモリなどのことですが、平成16年から18年にかけて行った鈴鹿市の自然調査では、28種類のほ乳類が確認されました。今回は、この中で三重県レッドデータブック2005に掲載されている4種と、えとにちなんでネズミを紹介します。

キクガシラコウモリは、洞くつに生息している種で、市内では小岐須溪谷の石灰洞で確認されました。レッドデータブックでは、準絶滅危惧種とされています。



キクガシラコウモリ(小岐須溪谷)

ツキノワグマは、2004年4月に小岐須溪谷上部の仙ヶ谷で目撃されましたが、その後の現地調査では市内では確認されていません。レッドデータブックでは、絶滅危惧B類とされています。

カモシカは、国の特別天然記念物に指定されており、鈴鹿市では入道ヶ岳や野登山などの山岳地帯に生息しています。レッドデータブックでは、準絶滅危惧種とされています。



カモシカ(小岐須溪谷)

ニホンリスは、市内では入道ヶ岳や小岐須溪谷、野登山で、マツカサを食べたこん跡

により生息が確認されました。近年は直接姿を見ることが困難となってきているため、個体数が減少していると推測されています。レッドデータブックでは、準絶滅危惧種とされています。

市内のネズミ

今回の調査で、市内では6種類のネズミが確認されました。このうち野外に生息している種類としては、スミスネズミ、カヤネズミ、ヒメネズミ、アカネズミ、ヌートリアが確認されました。

カヤネズミは、体重10gほどの日本で一番小さいネズミで、イネ科植物の葉の先を丸めて球状の巣を作ります。市内では鈴鹿川河川敷と徳居町の水田で巣が確認されました。

アカネズミは、農耕地から丘陵地、山地まで広範囲に生息しており、市内でも小岐須溪谷から徳居町まで各地で確認されました。



アカネズミ(市外で撮影)

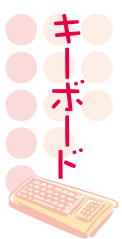
ヒメネズミは広い範囲に残された森林に生息しているため、生息地は限定されます。市内では西庄内町や加佐登神社で確認されました。

ほ乳類は、冬でも足跡や食べたこん跡、ふんなどのフィールドサインを見ることができ、一度野外で調べてみてはいかがでしょうか。



ヒメネズミ(市外で撮影)

広報すずか 2008年1月5日号



新年明けましておめでとうございます。本年も「広報すずか」をよろしくお願ひします。

昨年、東京のある民間研究所が「地域ブランド2007」という調査結果を発表しました。その中の「スポーツのまち」のイメージを持つ都市部門で、サッカーの磐田市、鹿嶋市を押さえて鈴鹿市が第1位に輝きました。

モータースポーツのメッカとして、また社会人野球やハンドボールチームの活躍が広く認識されている証拠ではないかと思ひます。これからも鈴鹿市の躍動的で明るいイメージをさらに全国、全世界へ発信していきたくですね。(真)

表紙写真

鈴鹿市最南端 初日の出

撮影場所 東磯山一丁目
撮影日 平成19年1月1日
撮影者 杉野 英郎 さん

